

OMRON

2025年3月期 第3四半期決算

2025年2月10日
オムロン株式会社

発表のポイント

● 2024年度 第3四半期 実績

- 全社実績は、売上は前年並みも、売上総利益率の改善、固定費効率化により大幅な増益
- 制御機器事業は、業績回復に向かう一方、ヘルスケア・電子部品事業で市況停滞の影響を受け低調に推移
- 全社の3Q累計実績は、営業利益が前年同期比プラス35%と増益に転じる

● 2024年度 通期見通し

- 通期業績見通しは、前回見通しから営業利益・当期利益を上方修正
- 各事業で不透明な事業環境を見通しに織り込む一方、固定費計画を再精査し見通しに反映
- 特に、制御機器事業は、売上・営業利益を上方修正。全社業績を牽引
- 期末配当は前回予想通り52円を計画。年間配当予想は104円を据え置く

1. 2024年度 第3四半期実績 P.3 ~ P.6
2. 2024年度 通期見通し P.7 ~ P.15
3. CFOメッセージ P.16 ~ P.19

1. 2024年度 第3四半期実績

3Q期間実績：全社連結

売上は前年同期並み。営業利益・当期純利益は大幅な増益

(億円)

	2023年度 3Q期間実績	2024年度 3Q期間実績	前年同期比
売上高	2,073	2,051	△1.1%
売上総利益 (売上総利益率)	861 (41.5%)	917 (44.7%)	+6.5% (+3.2pt)
営業利益 (営業利益率)	59 (2.9%)	167 (8.1%)	+181.6% (+5.3pt)
当社株主に帰属する 当期純利益	18	105	+493.8%
米ドル 平均レート (円)	148.7	149.0	+0.3
ユーロ 平均レート (円)	159.4	161.8	+2.4
人民元 平均レート (円)	20.5	20.9	+0.4

3Q期間実績：事業セグメント別

制御機器事業は増収増益。ヘルスケア事業、社会システム事業、電子部品事業は減収減益

	売上高			営業利益 (億円)		
	2023年度 3Q期間実績	2024年度 3Q期間実績	前年同期比	2023年度 3Q期間実績	2024年度 3Q期間実績	前年同期比
制御機器事業 (IAB)	915	915	+0.1%	9 (1.0%)* ¹	112 (12.3%)	+1183.0% (+11.3pt)
ヘルスケア事業 (HCB)	427	387	△9.4%	68 (15.9%)	55 (14.1%)	△19.6% (△1.8pt)
社会システム事業 (SSB)	372	359	△3.4%	42 (11.3%)	39 (10.7%)	△8.3% (△0.6pt)
電子部品事業 (DMB)	274	271	△1.1%	5 (1.7%)	1 (0.3%)	△83.7% (△1.4pt)
データソリューション事業 (DSB)* ²	74	113	- ^{*3}	6 (8.1%)	13 (11.8%)	- -
うちJMDC	74	114	-	22 (29.3%)	25 (22.0%)	- -
本社他 (消去調整含む)	13	5	△59.5%	△70	△53	-
合計	2,073	2,051	△1.1%	59 (2.9%)	167 (8.1%)	+181.6% (+5.3pt)

*1. 営業利益の表にある()は、営業利益率を示す

*2. データソリューション事業 (DSB) は、JMDC社の財務数値ならびに連結調整 (連結に伴うのれんを除く無形資産の償却費等)、他データビジネスに関する財務数値を含む

*3. JMDC社は2023年10月16日に連結子会社化したことから、前年同期比は比較が有効でないため非表示

3Q累計実績：全社連結

営業利益は増益に転じる

(億円)

	2023年度 3Q累計実績	2024年度 3Q累計実績	前年同期比
売上高	6,080	5,797	△4.7%
売上総利益 (売上総利益率)	2,582 (42.5%)	2,617 (45.1%)	+1.4% (+2.7pt)
営業利益 (営業利益率)	266 (4.4%)	359 (6.2%)	+35.1% (+1.8pt)
当社株主に帰属する 当期純利益	78	72 [*]	△8.5%
米ドル 平均レート (円)	142.9	152.1	+9.3
ユーロ 平均レート (円)	155.0	164.8	+9.8
人民元 平均レート (円)	20.0	21.1	+1.2

*構造改革における人員数・能力の最適化に伴う一時的費用として、212億円を計上

2. 2024年度 通期見通し

4Q期間の事業環境認識

各事業の需要回復度合いは、前回見通しと比べ緩やかな回復にとどまる

制御機器 事業

総じて緩やかな需要回復を見込む
半導体業界は堅調、環境モビリティは前回見通しより一段低調に推移

※詳細は後述

ヘルスケア 事業

中国市場は前回見通しどおり、低調に推移。他のエリアは堅調

循環器：グローバルで緩やかな成長を見込むも、中国では個人消費の低迷が継続し、低価格帯へのシフトが進む
呼吸器：ネブライザは、中国の呼吸器疾患特需の反動影響が継続、前回見通しよりも低調に推移

社会システム 事業

前回見通しどおり、事業環境は総じて堅調に推移

エネルギー：電気料金の激変緩和措置は継続も、補助金を背景に住宅領域の再エネ需要は想定通り緩やかに成長
鉄道業界：鉄道各社の設備投資需要継続により、前回見通しどおり堅調に推移

電子部品 事業

北米市場は前回見通しほど需要回復せず、低調に推移

DC機器・高周波機器：前回見通しどおり、半導体市場拡大を背景に堅調に推移
汎用機器：中国は堅調も、欧州は停滞。米州は前回見通しほどの需要回復は見込めず、低調に推移

データ ソリューション 事業

ヘルスビッグデータ事業を中心に、事業環境は総じて堅調に推移

JMDC：医療データ利活用の動きは、製薬・生損保業界を中心に堅調に推移
社会的な健康・予防意識の高まりを受けて、保険者・生活者向けサービスの需要が拡大

業績見通し：全社連結

売上は据え置き、営業利益・当期純利益を上方修正する

(億円)

	2024年度 前回見通し	2024年度 今回見通し	前回見通し比	2023年度 実績	前年度比
売上高	8,050	8,050	-	8,188	△1.7%
売上総利益 (売上総利益率)	3,630 (45.1%)	3,630 (45.1%)	- -	3,465 (42.3%)	+4.8% (+2.8pt)
営業利益 (営業利益率)	520 (6.5%)	540 (6.7%)	+3.8% (+0.2pt)	343 (4.2%)	+57.2% (+2.5pt)
当社株主に帰属する 当期純利益	110	125 *	+13.6%	81	+54.2%
ROE	1%程度	1%程度	-	1.1%	-
ROIC	1%程度	1%程度	-	1.0%	-
EPS (円)	55.87	63.48	+7.62	41.17	+22.31
米ドル 平均レート (円)	149.4	152.9	+3.5	143.9	+9.0
ユーロ 平均レート (円)	160.6	163.6	+2.9	156.3	+7.3
人民元 平均レート (円)	20.6	21.1	+0.5	20.1	+1.0

*構造改革における人員数・能力の最適化に伴う一時的費用として、約220億円を反映

業績見通し：事業セグメント別

制御機器事業は売上・利益を上方修正。ヘルスケア事業は売上・利益を下方修正。
社会システム事業は売上を下方修正。電子部品事業は営業利益を下方修正

	売上高				営業利益 (億円)			
	2024年度 前回見通し	2024年度 今回見通し	前回見通し比	前年度比	2024年度 前回見通し	2024年度 今回見通し	前回見通し比	前年度比
制御機器事業 (IAB)	3,580	3,620	+1.1%	△8.0%	360 (10.1%)*1	390 (10.8%)	+8.3% (+0.7pt)	+81.7% (+5.3pt)
ヘルスケア事業 (HCB)	1,520	1,490	△2.0%	△0.5%	185 (12.2%)	175 (11.7%)	△5.4% (△0.4pt)	△5.2% (△0.6pt)
社会システム事業 (SSB)	1,460	1,445	△1.0%	+2.0%	165 (11.3%)	165 (11.4%)	- (+0.1pt)	+17.7% (+1.5pt)
電子部品事業 (DMB)	1,050	1,050	-	△8.2%	15 (1.4%)	5 (0.5%)	△66.7% (△1.0pt)	△84.1% (△2.3pt)
データソリューション事業 (DSB)*2	430	430	-	- ^{*3}	35 (8.1%)	35 (8.1%)	-	-
うちJMDC	430	430	-	-	93 (21.6%)	93 (21.6%)	-	-
本社他 (消去調整含む)	10	15	+50.0%	△32.0%	△240	△230	-	-
合計	8,050	8,050	-	△1.7%	520 (6.5%)	540 (6.7%)	+3.8% (+0.2pt)	+57.2% (+2.5pt)

*1. 営業利益の表にある()は、営業利益率を示す

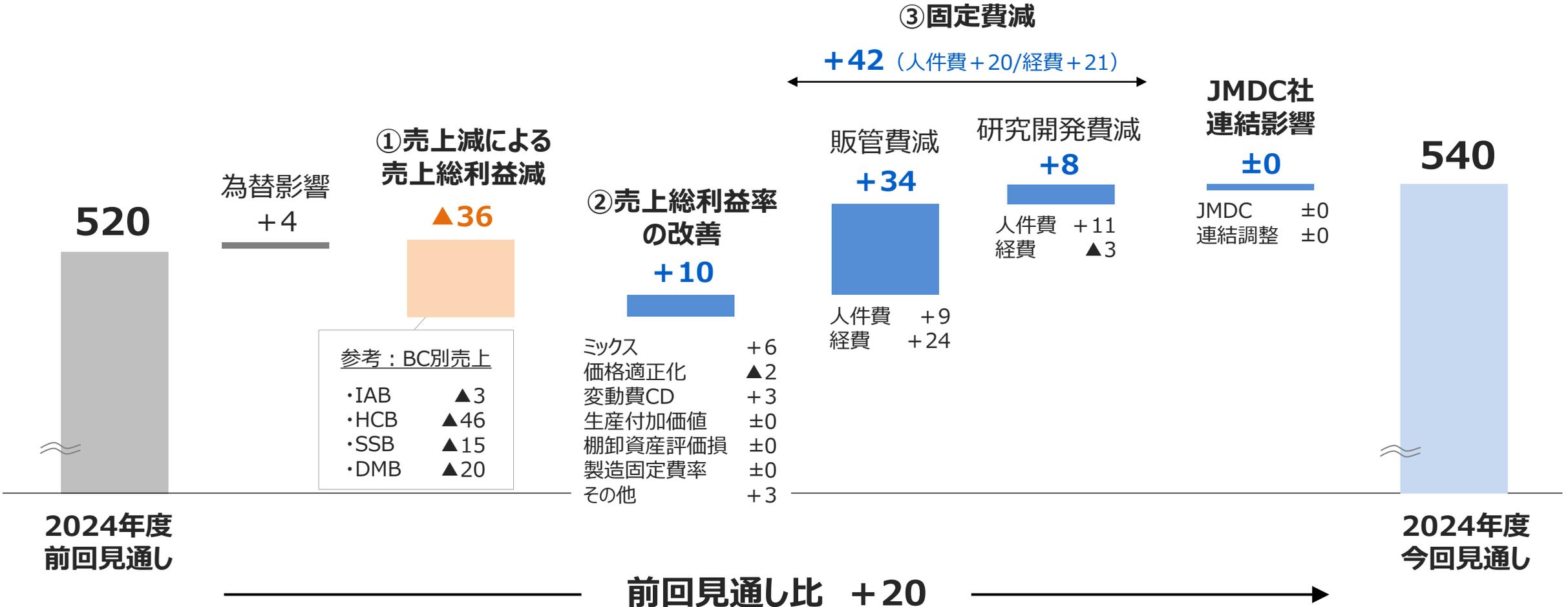
*2. データソリューション事業 (DSB) は、JMDC社の財務数値ならびに連結調整 (連結に伴うのれんを除く無形資産の償却費等)、他データビジネスに関する財務数値を含む

*3. JMDC社は2023年10月16日に連結子会社化したことから、前年同期比は比較が有効でないため非表示

業績見通し：営業利益増減（前回見通し比）

固定費計画を精査し、前回見通しからの利益増を見込む

(億円)



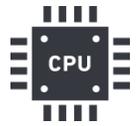
制御機器事業：4Q期間の事業環境認識

総じて緩やかな需要回復を見込む。

半導体は堅調に推移。EV・二次電池は前回想定より一段低調に推移

業界

4Qの事業環境認識



デジタル

- ・ 半導体は総じて緩やかな上昇基調が継続。
日本・アジアでは、AI関連投資の拡大継続を背景に堅調に推移
- ・ 太陽光発電システム（PV）は、回復の兆しなく低位継続



環境モビリティ

- ・ EV完成車・部品投資は、EV需要鈍化が継続し、想定より一段低調に推移
- ・ 二次電池は、EVの需要低迷に加え、世界情勢の変化を受け、
韓国での投資需要が想定より一段低調に推移



食品&日用品

- ・ 欧州市場の低迷が継続するものの、グローバルでは緩やかな回復を見込む



医療・物流

- ・ 医療・物流ともに、設備投資需要は横ばいが継続



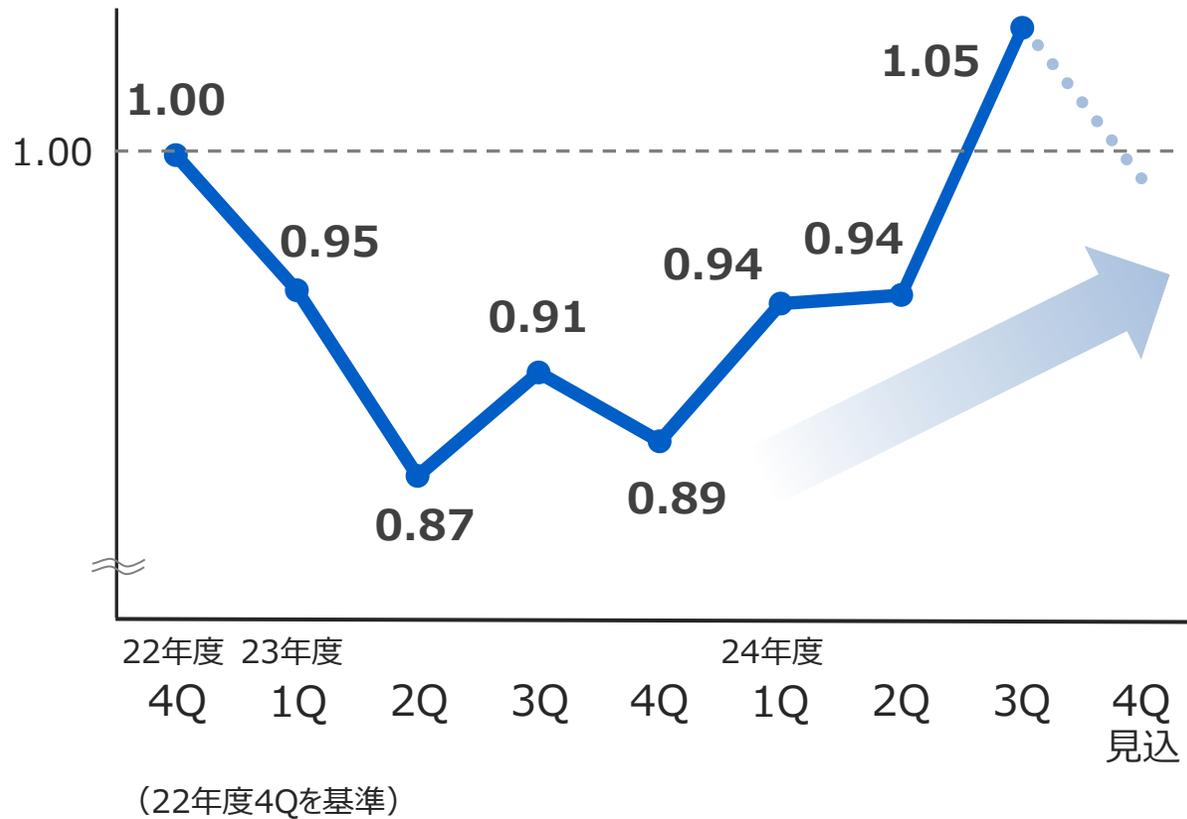
注力業界以外

- ・ 緩やかな投資回復に留まり、低水準で推移

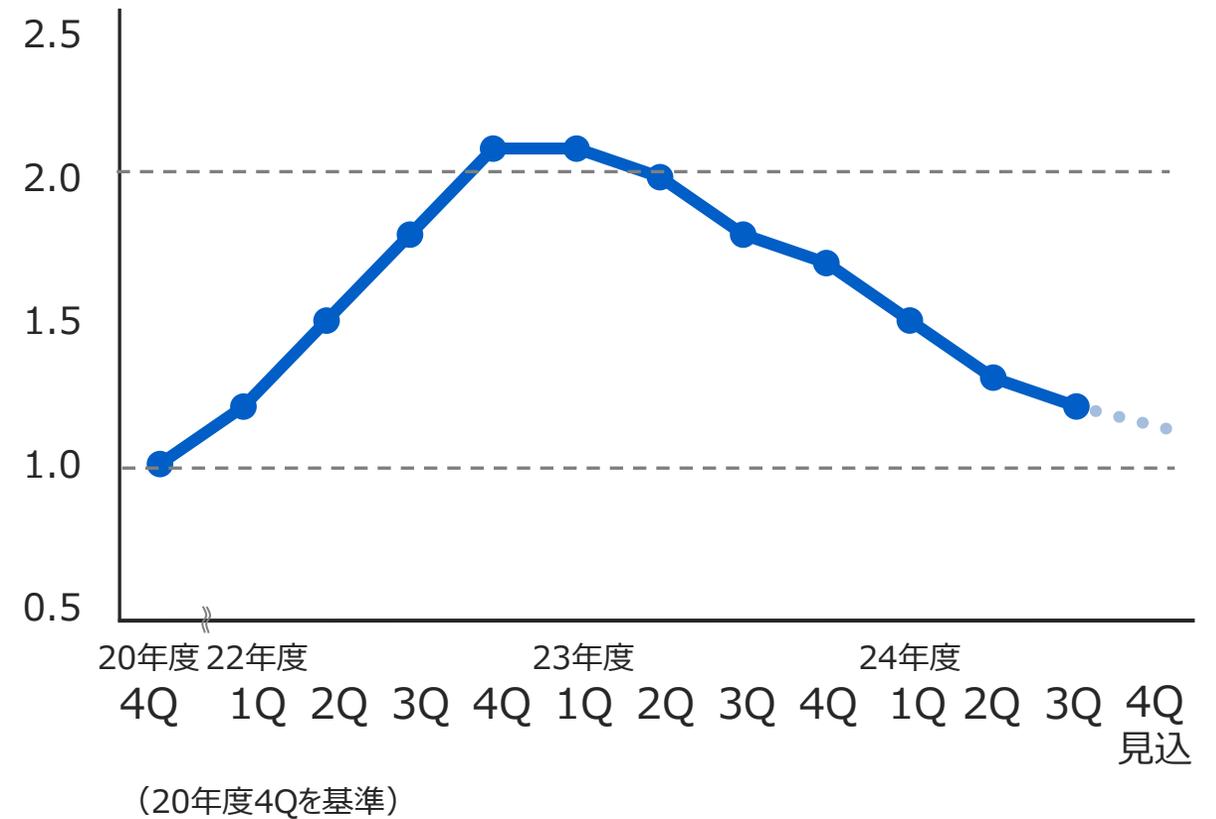
制御機器事業：受注・代理店在庫水準の推移

3Q受注水準は大きく改善。在庫水準は適正水準を維持

受注水準の推移 (FY24予算レートベース)



代理店在庫水準の推移 (全エリア平均)



制御機器事業：営業利益 見通し

売上総利益率の改善と固定費効率化を継続し、増益を見込む

営業利益の変化要因		通期見通し	前年度比*
売上減	事業環境	・ 前年度の高い受注残の影響と市況低迷が継続	▲ 185億円
	代理店在庫	・ 一部エリアで遅れがあるも、上期で総じて正常化完了	
売上 総利益率 の改善	商品・エリアミックス	・ 高付加価値商品群の構成比率拡大による改善	+ 174億円
	生産付加価値	・ 生産稼働率は前年水準から改善	
	棚卸資産評価損	・ 在庫マネジメントを継続。棚卸資産評価損の計上が減少	
	製造固定費	・ 人員数最適化により減少	
	その他	・ 23年度の価格適正化による効果は継続	
固定費	販管費・開発費	・ 固定費効率化を進め人件費・経費減。厳選投資を継続	+ 160億円

* 為替影響除く

株主還元

期末配当は、前回予想通り52円を計画。年間配当は期初計画通りの104円を維持

期末配当 (予想)

52円

年間配当 (予想)

104円

3. CFOメッセージ

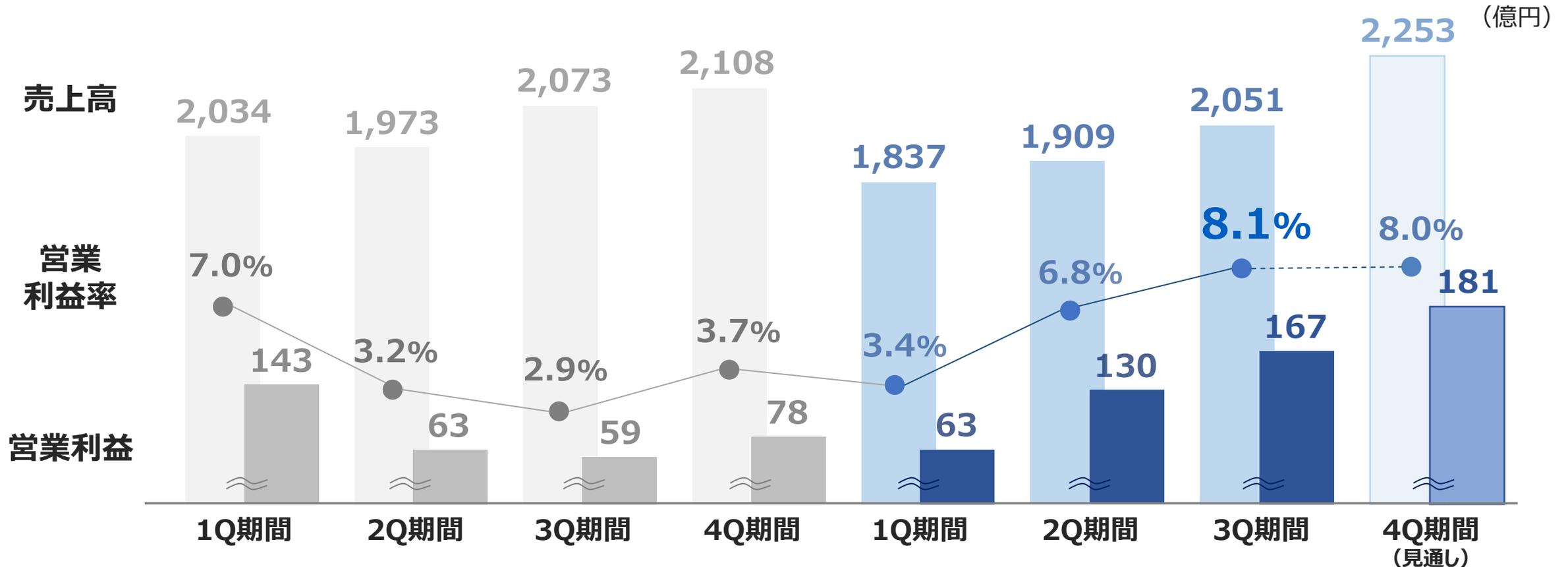
収益基盤の強化：四半期業績の推移

売上・営業利益ともに回復基調。

売上総利益率の改善と固定費効率化により収益体質の強化が進む

23年度

24年度



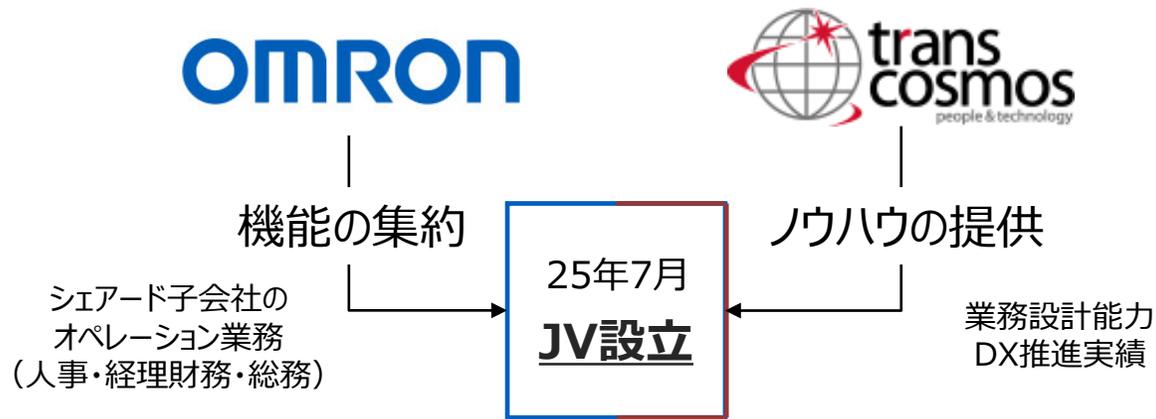
収益基盤の強化：本社機能の最適化

グローバルで本社機能を再編し、スリムなコスト構造への転換と事業運営スピードの向上を図る

日本

シェアード業務の効率化追求

- 業務プロセスの標準化とIT活用による自動化
- オムロングループ間接業務のコストダウン



オムロン トランスコスモス プロセスイノベーション株式会社*

*会社名は設立時に変更となる可能性があります

海外

エリア統括会社*の解消

- 重複機能解消による間接部門費の低減
- 体制・業務最適化による事業スピードの向上



*中国を除く 18

DJSI World

Dow Jones
Sustainability World Index

8年連続選定

EcoVadis

Sustainability Rating



OMRON

参考資料

連結貸借対照表

(億円)

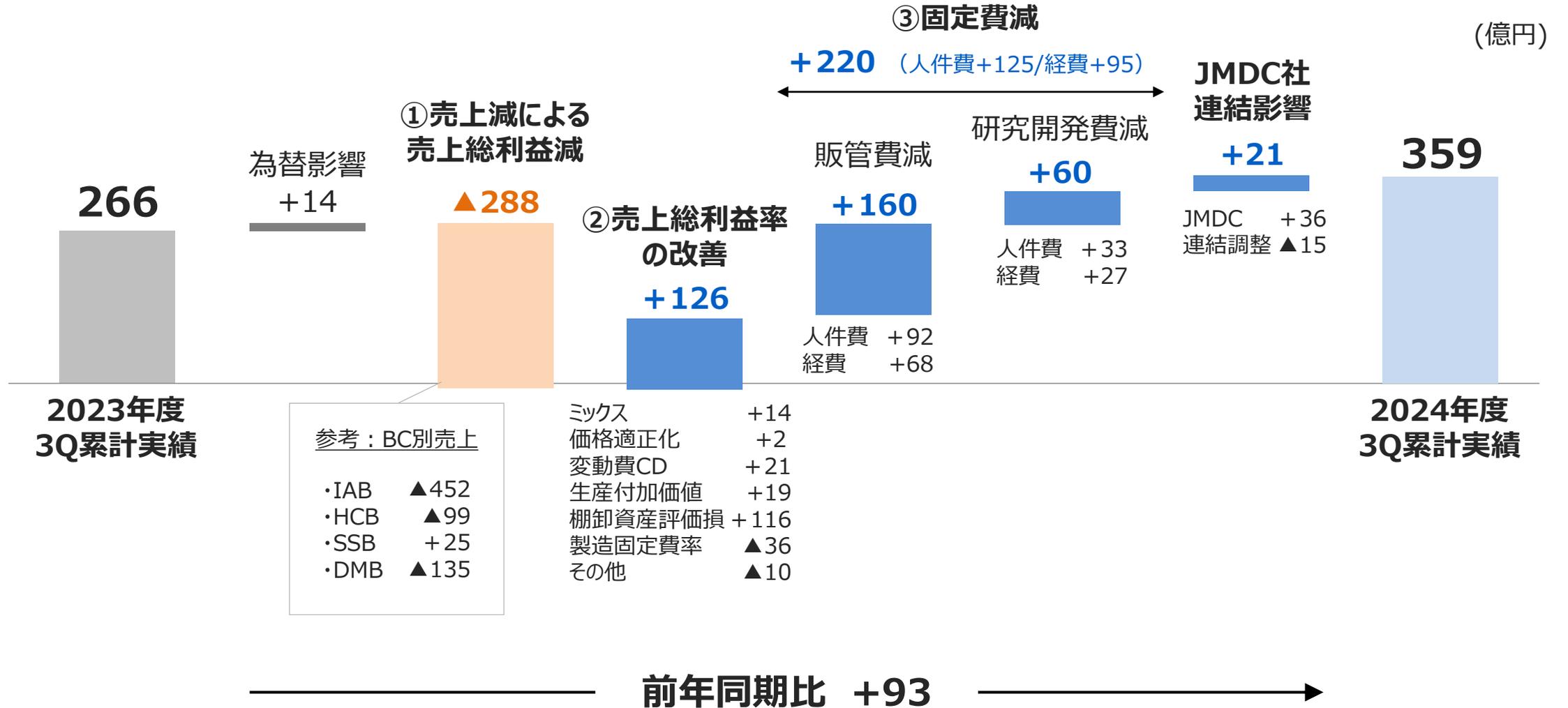
	2024年3月末	2024年12月末	前年度末差異
流動資産	5,476	5,422	△54
（現金及び現金同等物）	(1,431)	(1,369)	(△62)
（たな卸資産）	(1,740)	(1,945)	(+205)
有形固定資産	1,368	1,362	△6
投資その他の資産	6,703	6,948	+245
資産の部合計	13,547	13,732	+185
流動負債	2,312	2,341	+29
固定負債	1,725	1,749	+24
負債の部合計	4,037	4,090	+53
株主資本	7,867	7,985	+118
非支配持分	1,643	1,657	+14
純資産の部合計	9,510	9,642	+132
負債及び純資産合計	13,547	13,732	+185
株主資本比率	58.1%	58.1%	+0.1pt

連結キャッシュフロー計算書

(億円)

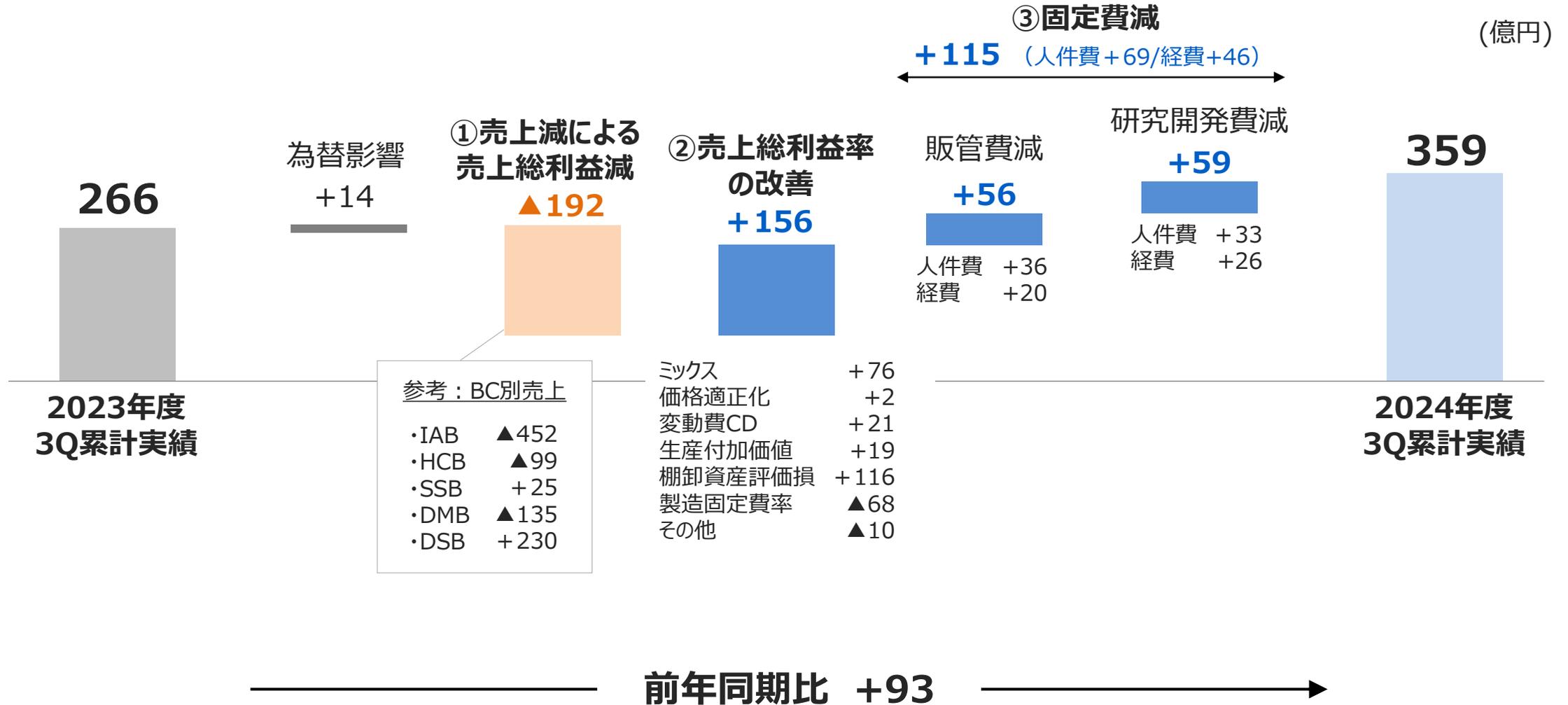
	2023年度 3Q累計実績	2024年度 3Q累計実績	前年同期差異
営業活動によるキャッシュ・フロー（営業CF）	319	329	+10
投資活動によるキャッシュ・フロー（投資CF）	△791	△432	+359
フリー・キャッシュ・フロー（FCF）	△472	△103	+369
財務活動によるキャッシュ・フロー（財務CF）	668	△22	△690
期末の現金残高	1,293	1,369	+76
設備投資	290	310	+20
減価償却費	223	250	+27

3Q累計実績：営業利益増減（前年同期比）

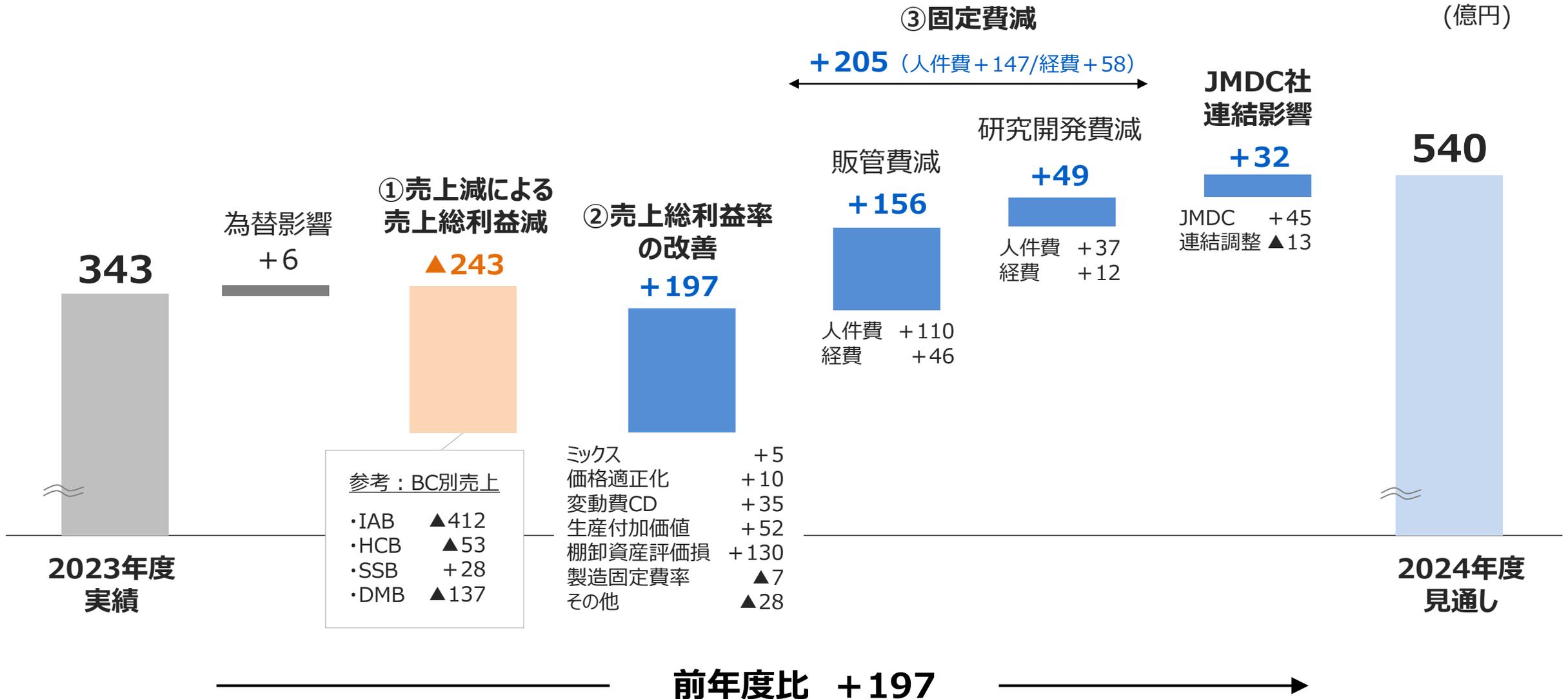


3Q累計実績：営業利益増減（前年同期比）

※JMDC社連結影響含む



業績見通し：営業利益増減（前年度比）



固定費増減（前年度比） ※販売費及び一般管理費・開発費のみ

テーマ	変動要因	固定費増減*（前年度比）（億円）		
		通期計画	前回見通し	今回見通し
「構造改革プログラム」による 固定費効率化	グローバルでの人員削減	▲220	▲218	▲222
	固定費生産性の向上			
成長投資	成長事業の競争力強化	+60	+36	+42
	新ERPシステムの構築・展開			
その他	インフレによる単価増など （人件費）	+120	+50	+34
	その他要因 （経費）			
固定費合計		▲40	▲161	▲205

*JMDC社分および為替影響除く

オムロン トランスコスモス プロセスイノベーション株式会社 概要

- 会社名** : オムロン トランスコスモス プロセスイノベーション株式会社*
- 所在地** : 京都府京都市
- 設立日** : 2025年7月1日 (予定)
- 設立時資本** : 1.8億円 (資本金9千万円、資本準備金9千万円)
- 株主** : オムロン株式会社 51%、トランスコスモス株式会社 49%
- 事業内容** : オムロングループの人事、経理財務、総務のオペレーション業務を受託

*会社名は設立時に変更となる可能性があります

2024年度の為替感応度・為替前提

1円変動(人民元は0.1円)による影響額(通期)

	為替感応度		為替前提
	売上高	営業利益	2024年度 4Q為替前提
米ドル	約13億円	約▲1億円	155.0円
ユーロ	約8億円	約3億円	160.0円
人民元	約7億円	約1億円	21.0円

*新興国通貨などが、主要通貨に対して期初想定通りに連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

ROIC計算式

$$\text{ROIC} = \frac{\text{当社株主に帰属する
当期純利益}}{\text{投下資本}^*}$$

* 投下資本 = 借入金 + 株主資本

投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績
または見通しを平均して算出。

＜注意事項＞

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞

オムロン株式会社

グローバル戦略本部 IR部

E-mail : omron-ir@omron.com

Webサイト : www.omron.com/jp/ja/